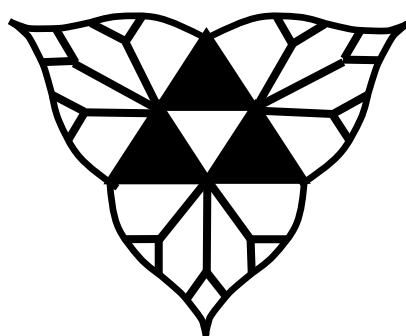


令和8年度学習シラバス

〔第1学年〕



学ぶ 鍛える 思いやる

八王子市立城山中学校

令和8年4月

もくじ

1	学習活動に臨む場	1
2	中学生としての学習方法	2
3	学習指導要領と学習評価（全学年共通）	3
4	国語	7
5	社会	9
6	数学	11
7	理科	13
8	音楽	15
9	美術	17
10	保健体育	18
11	技術家庭	20
12	英語	24

1 学習活動に臨む場

学校は、あなた自身が、そして仲間と共に沢山のことを学び合う場所です。学習活動に臨むにあたって、先生から教えていただき、あなた自身が取り組む、そして仲間と共に学ぶという3つの点で考えることが大切です。

学校は、教科の学習をするためだけに通っているわけではありません。学校における全ての学習活動（道徳科を含む各教科、総合的な学習の時間、学級活動、委員会活動、学校行事、部活動等）は、これからの社会がどのように変化して予測困難になったとしても、自分の夢や目標の実現を図る力を身に付けるために行うものです。

さらに、よりよく生きるためには、自分も相手も大切にすること、自分を取り巻く多くの人に感謝する気持ちをもつことができる人となること等、人としての豊かな心を育てることも目的としています。

これらのことから、城山中学校において、誰にとっても大切な学習活動に取り組む姿勢について、確認をします。

◇一人一人の「学びに向かおうとする」気持ちが学習の場を創ります◇

- (1) チャイムとともに、落ち着いた気持ちで授業を始めます。
- (2) 授業に必要な持ち物は忘れません。忘れたら、あなたから先生に伝えます。
- (3) 姿勢を正して学習します。姿勢が崩れると身に付く力も減ります。
- (4) この時間の「授業のねらい」を達成させます。
- (5) 授業中に勝手なことはしません。何かあれば、先生に尋ねます。
- (6) 学校は間違いや失敗をしてもいい場です。間違いや失敗から学ぶことはたくさんあります。仲間の発言等に、笑ったり悪口を言ったりしません。
- (7) 丁寧な言葉遣いで話します。
- (8) どの先生に対しても、あるべき姿で授業に臨みます。
- (9) 始業と終業の起立時は、椅子を机に入れて正しい姿勢で挨拶をします。
- (10) 名前を呼ばれたら「はい」と返事をします。

学び方の工夫

〈予習〉 分からないところにチェックを入れる 自分なりのめあてをもつ

〈授業〉 「今日のめあて」を確認する ノートに自分なりの気付きや疑問を書く
何が分かったか書き出す 何が分からなかったか書き出す

〈復習〉 学んだ内容をまとめ直す 新たに沸いた疑問を書き出す
「正解」よりも、正解に至った「道筋」を大切にする

2 中学生としての学習方法

1年生の皆さんは、中学校の学習に対する不安もたくさんあると考えます。

小学校と中学校での大きな違いは、教科ごとに担当の先生が替わる「教科担任制」になることです。授業は学年所属の先生だけではなく、他学年の先生や講師の先生が授業を担当することもあります。また、数学や英語のように少人数制の学習になる場面や、保健体育では男女が別々に学習をする場面もあります。

そして、授業の内容や時間数、授業の進め方等も教科によって異なります。

ですから、この教科シラバスをよく読んで、中学校での学習の内容や進め方、家庭学習の取り組み方について理解し、中学生としての学習方法を身に付けてください。

シラバスには次の内容が示されています。

- (1) 学習の進め方
- (2) 学習する上での注意
- (3) 家庭学習の進め方
- (4) 定期考査前の学習方法
- (5) 1年生での学習内容
- (6) 学習評価

さて、中学校では、各学期の決められた時期に全学年で同日にテストを行います。それが、中間考査・期末考査です。このテストは、皆さんが授業で学習した内容がどの程度身に付いているのかを、先生と皆さん自身が確認するために行うものです。

授業で分かった「つもり」になっていても、確実に自分の力にするためには「復習」が大変重要になってきます。

なお、授業で分からないことがあった時は、先生に質問をしてください。分からないことをそのままにしておくと、2年生、3年生になったときに困ります。

テストの結果からあなたの学習への取組（授業・復習）を振り返り、学習シラバスを参考にしながら次に進むためのきっかけにすることも大切です。

3 学習指導要領と学習評価（全学年共通）

学校における教育活動の根幹に、国が示した「学習指導要領」があります。

これは、子供の変化や社会の要請、時代の変化等を踏まえながら約10年ごとに改訂をしており、中学校では平成29年に示された学習指導要領が、3年間の移行措置を経て令和3年度より完全実施となりました。

今回の改訂は、目まぐるしく変化し、先に読みにくい社会であっても、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指しています。

また、学校、家庭、地域の関係者が幅広く共有し活用できる「学びの地図」としての役割を果たすことを求めています。



（文部科学省HPより）

(1) 学習評価についての基本的な考え方

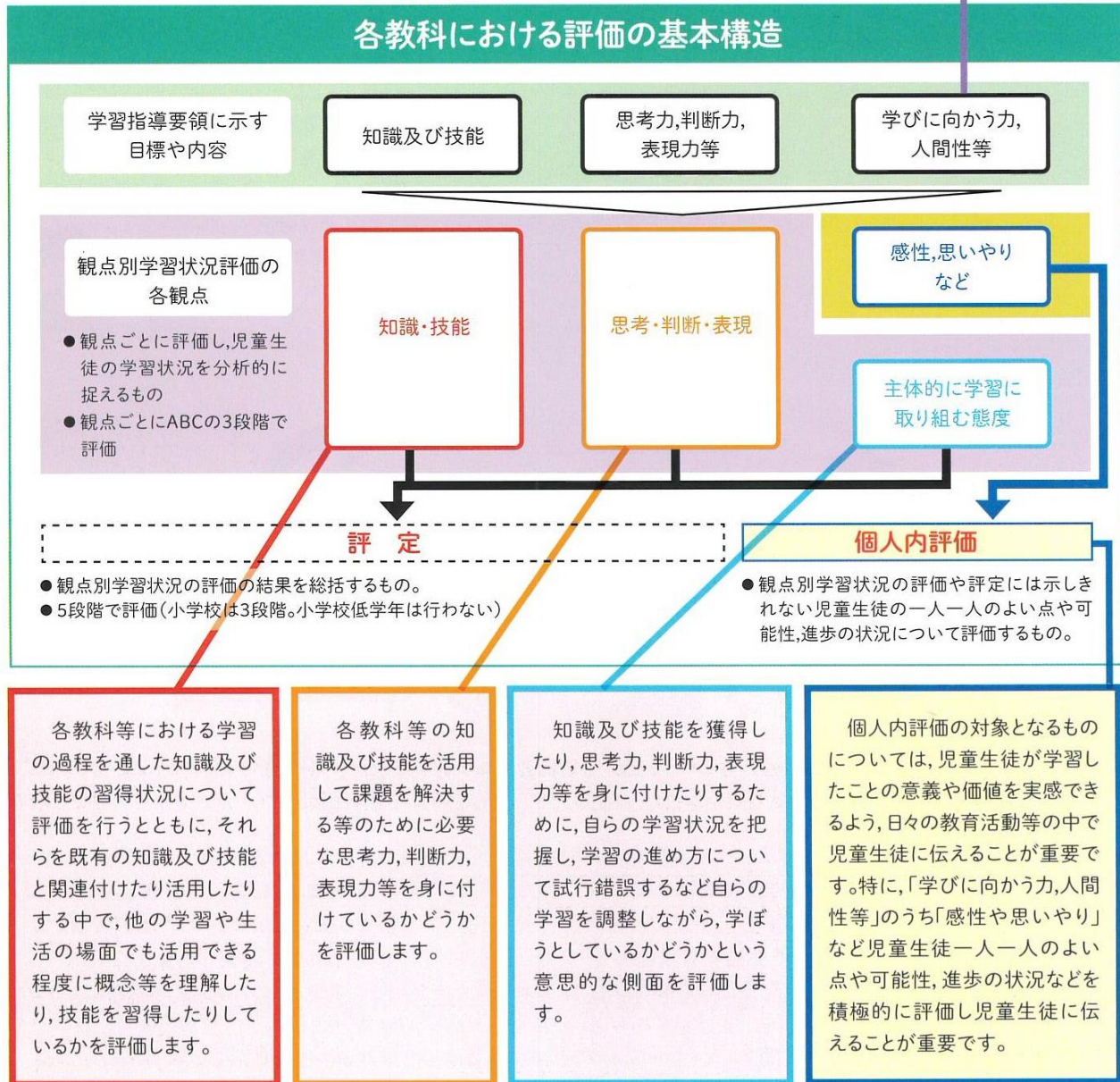
学習評価は、学校における教育活動に関しあなた方の学習状況を評価するものです。先生方にとってみれば、「生徒にどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、これからの指導の改善を図るとともに、あなた方が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためにも、学習評価の在り方は重要であり、教育課程の見直し、学習の定着度の把握、指導方法の改善と一貫性のある取組を進めています。

(2) 学習評価の構造

平成29年改訂で、学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科における観点別学習状況の評価の観点については、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理されています。

「学びに向かう力、人間性等」には

- ①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価(学習状況を分析的に捉える)を通じて見取ることができる部分と、
- ②観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価を通じて見取る部分があります。



(国立教育政策研究所『学習評価の在り方ハンドブック』より)

(3) 観点別学習状況の評価

観点別学習状況の評価とは、学習指導要領の内容に照らして、その実現状況がどの程度のものであるのかを観点ごとに評価し、生徒の学習状況を分析的に捉えます。

定期考査は複数ある評価材料の一部であることから、定期考査の結果のみをもって、評価並びに評定算出の根拠にはならないことを御理解ください。

① 「知識・技能」の評価方法例

- ア ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得等問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮をする
- イ 生徒が文章による説明をする
- ウ 観察・実験、式やグラフで表現する等、知識や技能を用いる場面を設ける
- エ 実技の状況をもとる

② 「思考・判断・表現」の評価方法例

- ペーパーテストのみならず、以下の例による様々な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりします。
- ア 論述やレポートの作成
 - イ グループや学級における話し合いから深めた考え
 - ウ 作品の制作や表現等

③ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価例

- 「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえて、評価します。
- ア ノートやレポート、学習カード等の記述内容（提出状況ではありません）
 - イ 授業中の発言内容（回数ではありません）
 - ウ 教師による行動観察
 - エ 生徒による自己評価や相互評価の状況を教師が評価するときの材料の一つとして考慮

(4) 評価・評定の算出

- ① 中学校学習指導要領に示された目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価した達成率によって、「観点別評価」を、**A・B・Cの3段階**で表されます。

80%以上	A（十分達成した）
50%以上80%未満	B（おおむね達成した）
50%未満	C（努力を要する）

- ② 中学校学習指導要領に示された目標に照らして、その実現状況を総合的に評価した達成率によって 「評価」を、5・4・3・2・1の5段階で表されます。

観点別評価	達成率	評価	達成率
A	80%以上	5	90%以上 (特に程度が高い)
		4	80%以上90%未満 (十分達成した)
B	50%以上80%未満	3	50%以上80%未満 (おおむね達成した)
C	50%未満	2	20%以上50%未満 (努力を要する)
		1	20%未満 (一層努力を要する)

- ③ 本校で、設定した上記の基準を設定した場合における観点別評価と評価の関連

観点別評価	最大	最小	評価	観点別評価	最大	最小	評価
AAA	100	80.0	4, 5	ACC	66.6	33.3	2, 3
AAB	93.3	70.0	3, 4, 5	BBB	80.0	50.0	3
AAC	83.3	53.3	3, 4	BBC	69.9	33.3	2, 3
ABB	86.6	60.0	3, 4	BCC	59.9	16.6	1, 2, 3
ABC	76.6	43.3	2, 3	CCC	49.9	0	1, 2

(最大、最小単位：%)

- ④ 総合的な学習の時間の評価は、文章表記で表されます。
 ⑤ 特別の教科 道徳の評価は、学年末に文章表記で表されます。
 ⑥ 第3学年2学期の評価・評価は、第3学年4月から12月までの学習活動の状況と成果を表します。

4 国語

○時数…週4時間（週3時間：高村、週1時間：島田）

○内容…読解（現代文・古文）・文法・書写 「話す・聞く、書く、読む」

（1）学習の進め方

- ① 漢字小テスト・・・漢字練習字典を順番に学習する。
- ② 単元学習・・・教科書の内容を、便覧、ワーク、Chromebook、辞書、ワークシート等を活用して学習する。
書写の学習には、B以上の筆記用具や習字道具を使用する。
- ③ ふりかえり・・・単元集終了時にテストを行い、学習の定着を確認する。
授業内課題が未完の場合は、次時までに取り組み、完了する。

（2）学習する上での注意 約束事

- ① ノートは、縦書きとする。（マス目でもよい）
- ② 常用漢字はなるべく漢字で書くこと。
- ③ B以上の濃い筆記用具を使用する。
- ④ 提出物は、指定日までに提出する。
- ⑤ 授業で使用したプリント類その他は全てファイルにとじる。

（3）家庭学習の進め方

- ① 予習
 - ・ 漢字練習・・・小テスト範囲の漢字を5回以上、丁寧に書くこと。
 - ・ ワーク・・・漢字、語句を中心にできるところから進めてよい。
- ② 復習
 - ・ 授業内課題が未完の場合は、次時までに取り組み、完了する。
 - ・ 授業範囲の便覧、ワークを活用して学習する。
- ③ 提出物
 - ・ ノート、ワーク、プリント、Chromebookで等。余裕をもって完了し、理解を深める。

（4）定期考査の学習方法

- ・ 試験前のみならず、日常的な繰り返しの学習が必須。
- ・ 授業内容について、ノートを中心に、便覧・ワーク・Chromebook 課題・ワークシート等の該当箇所を充分見直し、「書く」学習を徹底する。

（5）持ち物

- ・ のり はさみ 付箋 色ペン はいつも持ってくること。
- ・ 6月頃に、書道の道具を持ってくる。（後日連絡）

(6) 1学年の使用教科書・主な教材

教科書	伝え合う言葉 中学国語1
ノート	授業ノート、文法ノート、漢字ノート
副教材	よくわかる国語の学習1+MANAVIRIA 漢字練習字典 便覧 すらすら基本文法

(7) 学習内容

学期	月	単元	書写
1	4	ふしぎ 聞くということ 桜蝶 お気に入りの一品を紹介する(スピーチ)	硬筆
	5	オツベルと象 言葉の単位(文法)	毛筆 ↓
	6	自分の脳を知っていますか 昔話と古典一箱に入った桃太郎 物語の始まりー竹取物語	
	7	全ては編集されている 課題作文	
2	9	森には魔法つかいがいる	
	10	河童と蛙 蜘蛛の糸 課題作文 根拠を明確にして意見文を書く	
	11	言葉がつなぐ世界遺産 故事成語ー中国の名言 文の成分 単語のいろいろ	毛筆
	12	ベンチ イメージを言葉にする 課題作文	書き初め
3	1	少年の日の思い出 言葉の単位 漢字の部首	↓
	2	意見文(「エシカル」に生きよう)	
	3	子どもの権利 調べた内容を聞く	

(8) 観点別評価の割合と評価の主な対象

評価の観点	割合	評価の主な対象
知識・技能	1	定期考査 小テスト 発表活動 提出物
思考・判断・表現	1	定期考査 小テスト 提出物
主体的に学習に取り組む態度	1	自己評価表 提出物

5 社会

○時数…週3時間

○内容…地理的分野、歴史的分野

○持ち物…教科書・地図帳・資料集（地理/歴史）・ファイル

(1) 学習の進め方

- ① 前時の復習
- ② 単元学習…教科書の内容に基づき授業プリントを用いて学習を進める。
- ③ 本時の振り返り

(2) 学習する上での注意 約束事

- ① 地理は空間的な広がり、歴史は時間的な広がりを主に扱います。地理ではその地域の特色を、歴史ではその時代の特色に注意して学習を進めましょう。
- ② 授業プリントはファイルにとじ、なくさないようにする。
- ③ 持ち物を忘れないようにする。
学習に必要な資料・統計を確認するために必要です。
- ④ 提出物の期限を守る。

(3) 家庭学習の進め方

- ① 予習
 - ・ 余裕があれば、教科書で次の単元の本文を読んでおく。
- ② 復習
 - ・ 授業があった日は、家で教科書の読み直しをする。
 - ・ プリントにその日学んだ内容をまとめ、自分なりの気付きや疑問を書き出し、調べてみる。自分自身で工夫してまとめのノートを作ってみましょう。
 - ・ 課題が出された場合は、取り組み、完成させましょう。

(4) 定期考査の学習方法

- ① 日常の復習を忘れない。
試験前だけでは復習の量が多くなってしまうので、日頃から復習を心がける。
- ② 「書いて」覚える。
地理なら略地図を、歴史なら略年表を自分なりに書き出す。地名や用語は正しい漢字で覚える。「読む」「見る」だけでは頭に入らないので、しっかりと書き出して学習しましょう。
- ③ 教科書・授業プリント・資料集・地図帳を活用する。

(5) 主な学習内容

学期	月	単元名
1	4	【地理】世界と日本の地域構成（世界の姿）
1	5	【地理】世界と日本の地域構成（日本の姿） 世界のさまざまな地域（人々の生活と環境） 【地理】世界の諸地域（アジア州）
1	6	【地理】世界の諸地域（ヨーロッパ州） 【歴史】歴史のとらえ方、人類の登場から文明の発生へ
1	7	【歴史】東アジアの中の倭・中国にならった国家づくり
2	9	【歴史】展開する天皇・貴族の政治
2	10	【歴史】武士の世の始まり
2	11	【歴史】武家政権の内と外・人々の結びつきが強まる社会
2	12	【地理】世界の諸地域（アフリカ州）
3	1	【地理】世界の諸地域（北アメリカ州）
3	2	【地理】世界の諸地域（南アメリカ州・オセアニア州）
3	3	【歴史】大航海時代によって結び付く世界 戦乱から全国統一へ

(6) 観点別評価の割合と評価の主な対象

評価の観点	割合	評価の主な対象
知識・技能	1	定期考査、ノート・プリント活用、課題学習など
思考・判断・表現	1	定期考査、ノート・プリント活用、課題学習など
主体的に学習に取り組む態度	1	プリント・ノート活用、課題学習など

6 数学

○授業時数…週4時間

○クラス分け…習熟度別少人数クラス

(1) 学習の進め方

- ① 帯活動・小テスト…教科書の内容に沿った小テストを実施することがあります。
- ② 単元学習、問題演習…教科書の問を中心に、練習プリント等を利用して演習を行います。演習が早く終わった場合は、授業内に問題集に取り組みます。単元内で、1～数回、単元テストを行います。
- ③ 宿題…適宜課題を出します。(ミライシードや問題集)

(2) 学習する上での注意

- ① 授業では先生の説明をよく聞き、板書を写し、例題を参考に問に取り組みましょう。不明な点が出たら、例題を見て先生の説明を振り返り、それでも分からない場合は挙手をして積極的に先生に質問をしましょう。
- ② 公式を暗記するだけでなく、なぜその公式が成り立つのかを考えることが大切です。その成り立ちの理由を示しながら説明ができると、思考力がよく育まれます。
- ③ 授業で学習した内容が次の授業で定着していることを目標に、家庭学習に取り組みましょう。数学は既習事項を積み重ねて発展させていくということが顕著に表れやすい教科です。日々の振り返りを大切にして学習しましょう。

(3) 家庭学習の進め方

- ① 予習
 - ・ 余裕があれば教科書に書いてある単語の意味を確認しておきましょう。
- ② 復習
 - ・ 授業で取り組んだ問を解き直しましょう。(振り返りシートを参考に)
 - ・ 問題集を利用して類題に取り組みましょう。
- ③ 提出物
 - ・ 問題集、レポート、ワークシートや振り返りシート。期限を守って計画的に取り組みましょう。
 - ・ 間違えた問題はそのままにせず、解答を見て間違えた理由と正答までの筋道を考えましょう。自力で正答できるようになるまで根気強く繰り返し取り組みましょう。

(4) 定期考査前の学習方法

- ① 教科書や問題集の問を繰り返し取り組みましょう。解答を見ずに正答できることが大切です。授業で配られたプリントも活用しましょう。
- ② 先生に積極的に質問して不明点を解消しましょう。

(5) 5 1年での学習内容（授業時間は1週間に4時間 1年間で140時間）

月	学習内容	月	学習内容
4月	1章 正負の数	10月	4章 変化と対応
5月		11月	
6月	2章 文字の式	12月	5章 平面図形
7月		1月	
8月	3章 一次方程式	2月	6章 空間図形
9月		3月	
			7章 データの活用

(6) 観点別評価の割合と評価の主な対象

評価の観点	割合	評価の主な対象
知識・技能	1	○小テスト・ワークシート ○単元（観点別）テスト ○定期考査
思考・判断・表現	1	○小テスト・ワークシート ○単元（観点別）テスト ○定期考査
主体的に学習に取り組む態度	1	○ワークシート・レポート ○ノート・問題集・振り返りシート

7 理科

(1) 学習の進め方

○授業構成A（教室）

- 導入：本時のめあて提示
- 展開1：例示実験／動画視聴／資料提示
- 展開2：解説／学習活動
- 終末：まとめ、振り返り活動

○授業構成B（実験室）

- 導入：実験の目的確認
- 展開1：実験の手順説明
- 展開2：実験活動
- 終末：結果の共有、考察

(2) 学習する上での注意

理科は身近な現象を学んでいく教科です。教室で知識を学んで終わりではなく、学んだ知識を実際に使ってみることが大切です。日ごろの体験からいろいろな現象に対して「なぜ？」という疑問をもつことができれば、それが理科への興味につながります。教室で学んで終わりではなく、日々の生活の中で、理科で学習した内容に関連したことを見付けてみましょう。

実験室には壊れやすい器具や危険な器具などがたくさんあります。正しい使い方を学ぶ前に使うと、器具の破損やけがにつながりますので、勝手に触らないようにしましょう。

(3) 家庭学習の進め方

理科は予習より復習が大切です。家に帰った後、その日の授業資料（教科書、ノート、プリント等）を見返すだけでもかなりの学習効果が見込まれます。問題集を一括購入するので、対応するページをその日のうちに解くのもよいでしょう。家庭学習でわからなかったところは付箋を貼るなどし、後日先生に聞いたり調べたりしておくことで効率よく学習が進められます。

(4) 定期考査前の学習方法

授業の資料（プリントやノート）を見返す、問題集や小テストを何度も理解するまで解きましょう。

(5) 使用教科書・主な教材

教科書	未来へひろがるサイエンス1（啓林館）
副教材	理科の完全学習1年（正進社）

(6) 1年間の学習内容（授業の時間は一週間に3時間※一年間で105時間）

学期	月	学習内容
1	4	・植物の特徴と分類
	5	・動物の特徴と分類
	6	・動物の特徴と分類
	7	・いろいろな物質とその性質
2	9	・いろいろな気体とその性質
	10	・水溶液の性質、物質のすがたとその変化
	11	・光による現象
	12	・音による現象
3	1	・力による現象
	2	・身近な大地、ゆれる大地
	3	・火をふく大地、語る大地

(7) 観点別評価の割合と評価の主な対象

評価の観点	割合	評価の主な対象
知識・技能	1	定期考査（学期に1回）、実験の様子、小テスト、授業プリント、提出物
思考・判断・表現	1	定期考査（学期に1回）、小テスト、授業プリント、提出物
主体的に学習に取り組む態度	1	授業プリント、提出物、小テスト

8 音楽

(1) 学習の進め方

○実技（歌唱）

導入：本時のめあて提示
展開1：楽曲分析
展開2：発声練習、歌唱練習
終末：まとめ、振り返り

○実技（器楽）

導入：本時のめあて提示
展開1：楽器、楽曲分析
展開2：楽器練習、ペア・グループワーク
終末：まとめ、振り返り

○創作

導入：本時のめあて提示
展開1：創作の方法について
展開2：創作活動
終末：まとめ、振り返り

○鑑賞

導入：本時のめあて提示
展開1：楽曲分析
展開2：鑑賞、批評文
終末：まとめ、振り返り

(2) 学習する上での注意

歌唱や器楽、創作、どの題材でも、「自分でやってみよう。」と思わないと上達しません。もっと上手になるためにどうしたらいいかを考え、実践しながら、学習していきましょう。鑑賞や、楽曲分析をするときは、なぜ、この曲は明るく、もしくは楽しく聴こえるのか、悲しく聴こえるのはなぜか、などを考えます。

音楽は、次の要素からできています。【音色】【リズム】【速度】【旋律】【テクスチャ】【強弱】【形式】【構成】この7つの要素から、気付いたこと、そこから感じ取っていること、があります。（例えば、速度が速いから明るい感じ、強弱が強いから元気な感じ。など）このことを、知覚・感受と言います。知覚・感受した曲を自分でどうやって表現するか、どうやったら表現できるかを考えてみて、「音楽を楽しむ」、ということをしてほしいです。

(3) 家庭学習の進め方

普段は家庭学習の必要はありませんが、授業内で終わらなかった振り返りなどがあれば終わらせておきましょう。また、合唱の練習など、授業内だけでは足りないものは、音楽のクラスルームに音源を張り付けるので、自宅で練習してみましょう。

(4) 定期考査前の学習方法

授業のプリント、教科書を見返す。

(5) 使用教科書・主な教材

教科書	中学生の音楽 中学生の器楽 (教育芸術社)
副教材	コーラスフェスティバル (正進社)

(6) 1年間の学習内容

学期	月	題材名
1	4	「校歌」「イメージと音楽」
	5	「その先へ」 「春」
	6	「創作課題」
	7	「カリブ夢の旅」
2	9	「カリブ夢の旅」「魔王」
	10	「混声合唱曲」
	11	「浜辺の歌」「赤とんぼ」
	12	「ギター」
3	1	「六段の調」「日本の民謡」
	2	「アジアの諸民族の音楽」
	3	「創作課題」「君が代」

(7) 観点別評価の割合と評価の主な対象

評価の観点	割合	評価の主な対象
知識・技能	1	実技テスト・創作作品・定期考査・プリント
思考・判断・表現	1	実技テスト・創作作品・定期考査・プリント・批評文
主体的に学習に取り組む態度	1	授業態度・プリントの記述内容・実技テスト 創作作品・定期考査

9 美術

(1) 学習の進め方

○実技（製作活動）

- 導入：本時のめあて提示
- 展開1：実習内容の確認、進め方の確認
- 展開2：制作活動
- 終末：片付け、まとめ、振り返り

(2) 学習する上での注意

- ・ 忘れ物をしない
- ・ 見通しをたてて制作をすすめる
- ・ 50分の時間の中で、制作のペースをつかむ

(3) 家庭学習の進め方

授業中の制作が主な活動となりますので、宿題等は特にありません。プリントの説明等、わからないところがあれば調べたり質問したりしてください。

(4) 定期考査前の学習方法

事前にポイントを指示しますので、指示されたポイントは確実に覚えるようにするとよいでしょう。

(5) 使用教科書・主な教材

教科書	美術1 美術との出会い（日本文教出版）
副教材	美術資料（秀学社）

(6) 1年間の学習内容

学期	月	単元名
1	4	色ってふしぎ～色彩の世界～ 見つめると見えてくるもの 鉛筆の使い方（デッサン）
	5	
	6	
	7	
2	9	材料に命を吹き込む 動き出しそうな動物たち 広がる模様の世界 文字って面白い
	10	
	11	
	12	
3	1	じっくり見ると見えてくる
	2	
	3	

(7) 観点別評価の割合と評価の主な対象

評価の観点	割合	評価の主な対象
知識・技能	1	定期考査、作品、授業プリント、振り返り
思考・判断・表現	1	定期考査、作品、授業プリント、振り返り
主体的に学習に取り組む態度	1	作品、授業プリント、授業態度、振り返り

10 保健体育

(1) 学習の進め方

○授業構成（保健分野）

導入：本時のめあて提示

展開1：資料の提示・問題提起

展開2：考察等、学習活動（個人／グループ）

終末：まとめ、振り返り活動

○授業構成（体育分野）

導入：本時のめあて提示

展開1：内容及び進め方の確認・準備運動

展開2：練習・試合等（個人／ペア／グループ）

終末：まとめ、振り返り活動

(2) 学習する上での注意

- ① 陸上競技や器械運動、水泳、球技など様々な種目を行います。得意不得意に関わらず、何事にも前向きに取り組む姿勢が必要です。
- ② 体育分野では色々な運動が「できる」だけでなく、よりよく運動するにはどうしたら良いかなど、自分の課題を見付けることが大切です。そのためにも、ペアやグループなど、周りとの協力して学習を進めます。
- ③ 事故やけがの防止のために、頭髪を結ぶ、シャツの裾をズボンに入れるなど安全面に配慮する必要があります。
- ④ 保健分野では健康について学びます。自分の身体に関心をもって生活しましょう。

(3) 家庭学習の進め方

体育分野は復習より予習が大切です。事前に授業内容のフォームやポイントを見ておくだけで（教科書、ノート、タブレット掲載の資料等）イメージがわき、学習効果が見込まれます。実際に体を動かし、授業の中でわからなかったところは先生に聞いたり、グループワークでクラスメイトと分析することで、効率よく学習が進められます。

(4) 定期考査前の学習方法

授業の資料（プリントや学習ノート）を見返す、教科書を理解するまで読み込みましょう。

(5) 使用教科書・主な教材

教科書	新しい保健体育
副教材	ステップアップ中学体育・学習ノート

(6) 学習内容

学期	月	単元名	
		【体育分野】 担当：北村	【保健分野】 担当：乙坂
1	4	体づくり運動・陸上競技（短距離・リレー）	健康な生活と疾病の予防①
	5	バレーボール	健康な生活と疾病の予防①
	6	バレーボール・水泳	健康な生活と疾病の予防①
	7	水泳	健康な生活と疾病の予防①
2	9	体づくり運動・器械運動	心身の機能の発達と心の健康
	10	器械運動・柔道	心身の機能の発達と心の健康
	11	柔道・ソフトボール	心身の機能の発達と心の健康
	12	陸上競技（長距離走・走り幅跳び）	心身の機能の発達と心の健康
3	1	ダンス	運動やスポーツの多様性
	2	体づくり運動・バスケットボール	運動やスポーツの多様性
	3	バスケットボール	運動やスポーツの多様性

(7) 観点別評価の割合と評価の主な対象

評価の観点	割合	評価の主な対象
知識・技能	1	定期考査・実技テスト・試合内評価・学習ノート（体育分野）・プリント（保健分野）・単元ごとのレポート等
思考・判断・表現	1	学習ノート（体育分野）・プリント（保健分野）の記入内容（気づき、分析、課題、学び合い）・話し合い活動時の行動観察・試合内評価
主体的に学習に取り組む態度	1	学習ノート（体育分野）・プリント（保健分野）・行動観察・提出物の状況や欠席

11 技術家庭

技術

(1) 学習の進め方

講義

導入：本時のめあてを提示

展開：教科書、プリント等を利用して授業を展開

終末：まとめ、振り返り

実技

導入：本時のめあてを提示

作業安全について確認

展開：作業の説明、作業の開始、継続

終末：片付け清掃、振り返り

(2) 学習する上での注意

実習授業ではケガや事故につながる恐れのある場面が考えられます。各自、自分自身のケガを避けると同時に、他人にケガをさせる事故にならないよう、より一層の注意が必要です。実習においては授業の目的を確認しつつ、先生の話をよく聞き、各自の作業に集中しましょう。

(3) 家庭学習の進め方

技術の授業で取り扱う内容は現実世界とのつながりが非常に強いので、日常での生活体験を大切にしてください

(4) 定期考査前の学習方法

学習した内容ですので、ノート等を確認していればできる内容です。

(5) 使用教科書・主な教材

教科書	新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る（東京書籍）
副教材	マルチラック

(6) 1年間の学習内容（授業の時間は一週間に3時間※一年間で105時間）

学期	月	単元名
1	4、5	ガイダンス 製作品の設計・・・等角図、キャビネット図の書き方
	6、7	材料と加工の技術による問題解決 材料と加工の技術・・・さしがね、両刃のこぎりの使い方
	7	材料と加工法・・・げんのうの使い方
2	9	作業手順を考えて製作しよう・・・(マルチラックの構想)
	10	材料と加工方法・・・(マルチラックの製作)
	11	材料と加工方法・・・(マルチラックの製作)
	12	仕上げ塗装の方法
3	1	コンピュータの仕組みを知ろう
	2	情報通信ネットワークについて
	3	学習のまとめ

(7) 観点別評価の割合と評価の主な対象

評価の観点	割合	評価の主な対象
知識・技能	1	定期考査 作品 技能テスト 小テスト
思考・判断・表現	1	定期考査 作品 ワークシート 小テスト
主体的に学習に取り組む態度	1	振り返りシート ノート ワークシート 行動観察

家庭

(1) 学習の進め方

○講義

導入 : 本時のめあて提示

展開1 : 教科書、プリント、ワークノートを使って進める

終末 : まとめ、振り返り

○実技(被服製作)

導入 : 本時のめあて提示

展開1 : 実習内容の確認、進め方の確認

展開2 : 被服実習

終末 : 片付け、まとめ、振り返り

○実技(調理実習)

導入 : 本時のめあて提示

展開1 : 実習内容の確認、進め方の確認

展開2 : 調理実習

終末 : 片付け、まとめ、振り返り

(2) 学習する上での注意

「自分の生活はどうだろう?」と考えながら学習をするとよいでしょう。例えば、衣類の洗濯に関する講義では「家だと手洗いをしてから洗濯機に入れているな」衣類の繊維に関する講義では「セーターを着ると静電気が起きる」など自分の生活と照らし合わせて考えると理解が深まります。また、授業で習ったことを家で実践してみると、知識や技能が高まります。

裁縫道具や調理実習のエプロンなど授業に必要な道具は自分で準備しましょう。貸し借りはしません。

実習はミシンや包丁、ガスなど事故の危険性が高い授業内容です。道具を正しく使用し、実習内容を理解しながら安全に実習に臨みましょう。

(3) 家庭学習の進め方

普段は家庭学習の必要はありませんが、授業内で終わらなかった内容などがあれば、終わらせておきましょう。家庭で自分の仕事を担っていれば、実習や教科書の内容がよく理解できます。また、夏休みと冬休みの2回、実習を伴う宿題を出します。期日までに提出をしてください。

(4) 定期考査前の学習方法

試験範囲の授業のプリント、教科書、ワークノートを見直し、重要なポイントをまとめしっかりと覚える。教科書やワークノートに学習ページや練習問題があれば、自主的に取り組み、確認をしましょう。実習内容が範囲の場合は、製作の手引き、手順や縫い方、実習内容や切り方などを丁寧に復習しましょう。

(5) 使用教科書・主な教材

教科書	新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して（東京書籍）
副教材	ワークノート

2. 年間指導計画＜概要版＞

学期	月	単元名
1	4	ガイダンス 私たちの成長と家族・地域
	5	私たちの衣生活 衣服の選択と手入れ
	6	私たちの衣生活 衣服の選択と手入れ
2	7	私たちの衣生活 衣服の手入れ（被服製作）
	9	衣服の手入れ（被服製作） 学習のまとめ
	10	私たちの食生活 食事の役割と中学生の栄養の特徴
	11	私たちの食生活 中学生に必要な栄養を満たす食事
	12	住生活と自立…住まいの役割と住まい方、住まいの安全
	1	住生活と自立…災害に備えた住まい方、健康で快適な室内環境
3	2	住生活と自立…よりよい住生活を目指して
	3	学習のまとめ

観点別評価の割合と評価の主な対象

評価の観点	割合	評価の主な対象
知識・技能	1	定期考査、作品（製作物）、ワークノート、プリント
思考・判断・表現	1	作品（製作物）、ワークノート、プリント、宿題等
主体的に学習に取り組む態度	1	ワークノート、プリント、作品（製作物）等

12 英語

(1) 授業の約束

- ① 学習道具や宿題を忘れない。
- ② 「聞く、話す、読む、書く」などの活動にしっかりと集中する。
- ③ 提出物は期限を守りましょう。

(2) 授業で使う道具について

持ち物にはすべて、ネームペンで学年・組、出席番号・氏名（日本語）を記入する

- ① 教科書
- ② 授業用ノート（4線がついている15段のもの）
- ③ Joyful Workbook（英語のワーク）
- ④ ファイル（学校で用意します）
- ⑤ Let's enjoy Bingo



(3) 授業のノートづくりについて→詳しくは授業にて説明

【ノートづくり】

- ① 予習
 - ・ 左ページに、本文、新出単語を英語で写す。教科書を見て新出単語の品詞と意味を調べ、左ページに書く。
- ② 授業中
 - ・ 右ページに、板書と練習問題の答えなどを書く。
→授業中に自分が大事だと思う表現・意味などをメモすることも大事！

(4) 評価について

評価の観点	割合	評価の主な対象
知識・技能	1	定期テスト「知識・理解」の得点、小テスト
思考・判断・表現	1	定期テスト「思考・判断・表現の問題」の得点、パフォーマンステスト（スピーチ、音読、会話テスト等）
主体的に学習に取り組む態度	1	提出物、休み明けテスト・小テスト・パフォーマンステストの態度の点数等

(5) 学習内容

学期	月	単元名
1	4	Starter 1~6、Lesson1 About Me be 動詞 一般動詞
	5	Lesson2 My Hero 助動詞 can
	6	Lesson3 My Treasure be 動詞 is / 疑問詞 who
	7	Lesson 4 My Summer Plans 過去形
2	9	Lesson 4 My Summer Plans 疑問詞 where / Project 1 What am I? クイズ
	10	Lesson 5 Ms. Brown' s Family 3 単現 / 疑問詞 Whose
	11	Lesson6 School Life in the U.S.A 現在進行形 / 疑問詞 Which
	12	Lesson7 Athletes with Spirit 過去形 肯定 疑問 否定 / Project2
3	1	Reading Lesson1 / Lesson8 Discover Japan be 動詞の過去形 過去進行形
	2	Lesson9 Emergency Food 未来の文 will / be going to
	3	Project3 / Reading Lesson2

(6) 最後に

英語上達のコツは繰り返すことです。この1年間諦めず頑張りましょう！

Everybody has talent, but ability takes hard work. - Michael Jordan

誰もが才能を持っている。でも能力を得るには努力が必要だ。- マイケル・ジョーダン